

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	心やすらぐんの場合などでみんなの笑顔が みんなのしあわせを理念にあげ 利用者が地域の一員として暮らし 続けることを支援している。	各フロア、玄関など、日常的に 目につく所に掲示している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ホールに理念、目標、ネガティブ し、全体会議やミーティング等、後唱者有 りしている。また利用者支援にあたり 理念を表現できるような実践している。	○ よりいっそう綿密に取り組んで 行くことを重視したい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続 けることを大切にした理念を、家族や地域 の人々に理解してもらえよう取り組んで いる	玄関やフロアなど目につくところに掲 示しており、それぞれの家族に理解 していただけるよう努力して取り組んで いきたい。	○ 日々の介護、支援、対応などで理念 に合った取り組みを実現する。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声 をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえ るような日常的なつきあいができるように 努めている	年間行事などで隣近所の参加 などを声掛けし、参加していただくよう 努力している。	○ 隣近所へ声掛けすることで 参加が実現している。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活動 に参加し、地元の人々と交流することに努 めている	お祭りなどの催物、行事などにボラン ティアなど積極的に受け入れられ 地域と交流している。	○ 利用者が地域の方々と交流 できる機会を増やしたり、事業所の 理解を深める働きかけを期待する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者に対する対応については、取り組んでいない。		空き室を利用し、地域の高齢者が必要であれば利用していきたいようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の実施も理解し、その後の改善に取り組んでいる。		外部評価の結果後は、ミーティングで改善すべき点について話し合いをする。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2〜3ヶ月に一回開催している。状況報告したり、意見交換をしたりしている。	○	2ヶ月に一回の開催の途連続、外部から見た(構成員の方)意見を聞き、改善に取り組むたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の受け入れなどでの交流はあるが、サービス向上の為に話し合いはない。		市町村へのきかめ回し機会を作り、近況報告をしようとした。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	入居者及び家族からの要望は、母体である事業所関係者に相談し、活用方法を支援出来るよう働きかけを目標にした。		資料をもとに勉強会を行った。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日及び入浴時など個々の身体チェックにより、打撲などの有無の確認、言葉遣いにおいても認識徹底している。		常に虐待への認識も職員に徹底している。又研修内容も参加した者が報告している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は、利用者、家族などに見学・説明を十分に行い、院内で行ったおかげも努力している。	入所時は契約者、重要事項説明書を家族に説明し、院内で行った上で入所している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見、不満、苦情などの訴えがある場合には話を聞いたし、解決出来るように努力している。	意見、不満、苦情などの訴えがあった場合には利用者や職員とのコミュニケーションを逐いにし、解決するよう努力している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホーム便り、金銭管理の報告等を家族に送付している。利用者の一人ひとりの日常生活をアルバムにして玄関ホールに設置し、見ることが出来るようにしている。	定期的に施設への訪問が出来ない家族に対し、出納帳、領収証などの写真を送付している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに投書箱を設置し、家族の意見などを募っている。外部者へ表せる機会も現在行っていない。	外部者へ表せる機会を何らかの形で行おう努力をした。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の運営者及び管理者の定例会議で行っている。	月一度のミーティングを常に実行している。今後も行いたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員各自の勤務調整は出来ている。利用者において状況に応じて対応している。家族に対しても柔軟に対応している。	家族の対応は柔軟に対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的に他棟へ手伝い(入浴日など)、又は西尾宅替えなどこころみ、利用者へ馴染みおよう努力している。	○	月1回のミーティングなどで各種利用者への情報交換などしている。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の病院セグメントへ手伝いなどに出向いたり、研修に参加するよう努めている。	○	外部研修には出来る限り参加している。職員全てに周知するように掛けた。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人へ施設見学する事で交流をもつ事ができた。	○	すべての職員から見学、交流が出来るようになり、今以上のサービス向上に繋ぎたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間のコミュニケーションに掛けている。	○	職員との話し合いなど互いのコミュニケーションをより深めるようにしていきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は年間を通して行われる研修など積極的に受講したりして向上心を高めるよう努めている。	○	年に一人一人の割りで行われる研修や受講の介護に対する向上心を高めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所希望があった時に利用者へ何度か話しをする機会をもうけ利用者本人の不安や希望に配慮を聞くようにしている。	○ できるだけ入所前に家族と一緒に施設見学をしていた。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所希望があった時に、家族と何度か話しをする機会をもうけている。その時に希望や心配事を聞くようにしている。	○ できるだけ入所前に本人と一緒に施設見学をしていた。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族が何を望んでいるか話し合いの中で支援出来る範囲と希望を見極めるよう努めている。	○ 初期見極めや中期見極めが利用者、家族の希望のため、それによりリハビリなどに力を入れ、認知行動療法による支援をした。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	常に利用者が自分のペースを保てるよう支援している	○ 入所希望があった場合は、本人と家族一緒に入所見学をすすめている。また希望があれば、体験入所も実施している。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日も有意義かつ楽しく過ごせるように努力している。	○ 歌や折り紙、テレビ観賞、散歩、カラオケなど楽しんで過ごしていた。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者が何を希望しているかなど家族と一緒に考え行動を共にするようになっている。年間行事などい面会の機会を作っている。		年間行事を行うことで家族の面会の機会を多く取りたい。家族と共に支えていくよう努めている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の状況は家族に逐一連絡を取り、より良い関係が築けるよう配慮している。		電話などの連絡やさくらだまりでより良い関係を築くよう努力している。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会に来ていたとき居宅やフロアなどで過ごしていたようにしている。		外出、外泊など自由に行き回れているが、全員ではない。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブルの原因によりもう利用者同士は棟を別々にするなど、配慮に配慮している。		常にトラブルが起きないように職員の見守りなど穏やかに接するよう努力している。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	全員ではないが、利用終了した後にご家族から時々折り返し連絡をいただく近況報告などもある。		自分の生活が可能になったため退院されたが、今後共に関わり続けたい時は受け入れをお願いしたいとの申し出があった。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、常に関心を払っている。	○ 常により良い介護に関心を持って取り組んでいる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や個人の尊厳を支えられるよう、過去の経歴などを理解し支援を行っている。	常に取り組んで努力している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の介護内容等と利用者一人ひとりの個人ファイルに言記記録している。	継続的に継続していきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用の開始当初にあたり、利用者家族とよく話し合い、問題点や希望に合った介護計画を作成している。	○ 常に利用者や職員とのコミュニケーションにより利用者の変化を見過す介護計画に反映した。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の進行状況や効果などを評価すると共に、状態変化、家族、本人の要望に応じて介護計画を見直ししている。	○ 利用者の状態の変化に即時対応できるように取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身の状態や介護内容等を利用者一人ひとりのケース記録に一日の出来事を記録している。毎週はわかりやすく赤ペンで記入している。		継続して実施していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の要望により、母体である医療機関のサービス利用など、その状況に応じて柔軟に対応している。	○	入新当初の見極めにより、利用者、と家族の要望に応じて母体医療機関のサービス利用など支援する機会も出た。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的なボランティアの活動、年2回の消防、避難訓練などの実施を行っている。		毎年同様に予定は行う、また全員参加出来るよう努めている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	母体である事業者との話し合いはあるが、サービスの利用は、今のところ無い。	○	本人の意向があれば、そのサービス利用も考えていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は、前年度より少しづつではあるが連絡などはあるが、長期的なケアマネジメント等は無い。	○	地域包括支援センターとのつながりを密にし、支援していくよう協力していきたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族が希望するかかりつけ医の受診は自由であり、受診後も母体医療機関にも医療は継続受診出来るよう支援している。		かかりつけ医の受診の際、家族が遠距離居住の場合、職員が代行して受診に代わったりもしている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて専門医の診断は行っている		家族が受診希望であれば専門医の受診は自由である。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	気軽に相談出来る看護職が施設にいたるため、利用者の日々の健康管理など行っている		なじみの看護職と職員と相談しながら健康管理など継続していきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時は早期退院に向け、主治医と管理者は密に情報を交換している。		管理者が入院中利用者の様子を知り、利用者の状況など医療機関と連絡を密にしている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体医療機関と連携を密にし、特に家族と話し合い、何が本人、家族にとって一番良いか、全員で考えるようにしている。	○	高齢の利用者、そのご家族の将来的な希望を常に聞き取りながら介護している。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	母体医療機関との連携を密にし、利用者家族の希望を元により良い介護が出来るようローテーションを組ませたい。		母体医療機関との連絡を密に一人ひとりの体調を把握し取り進んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	本人現状レサリ一対一情報交換 を密に行なうように努めている。		利用者のおりの居所への移住が楽 なる紹介状、及レサリ一対一ケア 関係者に紹介は出来る
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	全体会議やミーティング等での利用者の 誇りやプライバシーを損ねない 支援を行なうよう徹底している。		個室対応を原則とし、入浴、トイレ 介助など一人ひとりの下辱に於ける こころに掛け実行している。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	利用者の意見はよく聞き、希望 に応じた楽しみなど出来るよう 参加を促している。		利用者が思いや希望を表せやすくなる 出来るように心がけている。 利用者がその内情出来るよう説明出来る 対応を常に心がけている。
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	理念に基づき、利用者一人ひとりの ペースを大切にし穏やかに過ご せるよう支援している。	○	これまでの理念に基づき、反復 しており、これからも継続して いきたい。
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	理髪は毎月2回、施設内に 一人ひとりの希望を聞きながら 近所の美容院予約は希望で行ける ようにしている。		利用者の希望があれば預り金などで 購入出来るようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食事を楽しむことが出来るよう、彩り、量、盛り付け等、利用者一人一人に配慮している。専任スタッフと利用者と一緒に話し合いながら食事を楽しんでいる。	○	食事の献立について、利用者の好みや希望、体調、状況など配慮して献立している。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	望む嗜好品を支援出来る物、出来ない物はあるが、出来る限り好みのものを支援出来るように努めている。		一人一人の状況に合わせて支援することは出来るが、出来る範囲で支援したい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	休居前、その後には必ずトイレ介助する。又、トイレ使用の際、出来る限り、介助して失敗をなくするよう努めている。	○	トイレ介助や声掛けにより、失禁を減らすことで肩甲骨パット及びパンツ類を穿つことが少なくなるようこれから継続してしていきたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在週2回午前中に行っている。温度の高さを、入浴の時間の短長は個人の好みに合わせている。曜日、時間帯の変更も可視である。	○	週2日は実施している。利用者にも定着している。入浴前後はその希望、体調などに合わせることもある。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	季節により居室の温度は調節したり換気の調整は毎日行い、気持ちよく安心して高品質な休息出来るようにしている。		昼間と同様に夜間の温度調節は適温に調節しており、安眠出来るようにしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人一人に合ったことを把握して得意と思われる仕事を発見し感謝の言葉を言っている。		医師からの助言あり、一つの動作の負担を減らしてでも着て現れが同じと思えばそれ落着いておられる。歌など唄ったり楽しく過ごしている。


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設から現金をお預かりして管理している。必要なもの、希望のものなどは都度、必要に応じて対応している。		購入したいもの、必要なものはある場合、職員が代行して買いに行くようにしている。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関前やその周辺など散歩する機会が多い。お外に出る＝たま、家族と共にかが多い。	○	職員が買い物の、その他外出する時など一緒に行くなどしている。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	レストランなどの会食を計画していたが、出入口や送迎車などに問題が多く、又高齢者、車椅子の利用者が多いためお断り。		身近な場所への外出はじめて行くよう努力している。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内での利用出来たが、家族が見えたり、ご家族からの電話が多い。手紙は職員が代行するものもある。		手や指の不自由な方や耳の遠い方には、は、代行してお金を入れた。先方と話しをしてもらっている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	週2〜3回くらいの割りび来所される方もある。又遠くからでも定期的に来られ居間で談笑されたり施設での写真など見たり遊ばれる。		訪問時居室が混雑することから、出迎えだけ形態にしている。訪問後利用者が一緒に見送りに行くよう対応している。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車椅子対応の方が車椅子防止のため安全ベルト着用が必須の場合、お断りの了解をいただいた上で対応している。		車椅子対応でも出迎えだけ早く歩行に替える努力、リハビリなど日々努力している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関は危険防止のため家族の了解を得て内側から鍵を掛けている。 居室などは、自由に出来る。 (出入)</p>	<p>玄関内側の施錠はより希望の強い方も居る為、安全性を考えると内側から鍵を掛けることは難しい。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>昼間は見守りを重点に介護し夜は、最夜9時・12時・3時・5時には必ず巡回し見守りをしている。</p>	<p>常に不承で見守り、声掛けなどで状況を確認出来るよう努めている。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>利用者により注意の必要な危険に気づく物品などは徹底して管理体制をとっている。</p>	<p>ベットのフタやベットに設置するものを細くして、危険な物は取り除きして転倒防止や危険防止に努めている。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>ミーティングや講座などにより又毎月書などで学んだり職員同士の情報交換などで事故防止に努めています。</p>	<p>見守り、介助など身近に出来る防止策を基本にして、ミーティング、勉強会などで学んでいる。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>応急手当と異動出来る体制は現在全ての職員には行き届いてはいないが、全体医療機関との連携で準備している。</p>	<p>○ 医療機関に訓練の協力を依頼したり、消防署での応急講習会に参加している。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>利用者と共に防災訓練、避難訓練に参加し、地域の人々へは声掛けなどお願いしている。</p>	<p>○ 地域住民の協力を密にするよう日々から情報交換するようにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大 切にした対応策を話し合っている	個人差があるため、家族等の話し 合いで理解を促している。 ○	○	家族等のコミュニケーションを今以上 に持ち話し合いの場を多く持つて いきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気付いた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている	常に見守りに注意し、顔色、状態 などに気遣い、声掛け、体温測定 、血圧測定、問診などを行っている。		見守り、声掛け、利用者一人一人の 状態を見逃さないよう対応している。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量について理解し ており、服薬の支援と症状の変化の確認に 努めている	一人ひとりの薬の目的など理解するよう 努めている。服薬支援の責任の重さ を十分に理解し、症状の変化は、見守りな らから対応している。		水分摂取の困難な利用者には、 薬と食べ物を混ぜてスプーン対応したり 大きな錠剤は割ったりして服薬易くして 対応している。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の個人データを書き録し、ファイルしている。 その状況により水分摂取量、食事による 調整を行い、訪問、外来受診などで 医師による診断も受けている。		個人差があるが、散歩による予防、 下剤による調整、なども行っている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた 支援をしている	毎食後、おやつなど口すすぎしたり、 夕食後には口内ケアを全員に実施 している。また、14月に1回の歯科訪問 診療にて口腔ケアも実施している。		入浴後などは次朝まで洗濯機に 浸し一時預かり朝には消毒するよう 対応している。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分、食事摂取量を朝、昼、3時、 夕方と書き録しに管理し、バランスの良い 食生活をも個人保している。	○	食事摂取量は個人別に目標栄養摂取量 の分量は毎日変化もあり声掛けで摂取 を促している。また、栄養補助食品も売 りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ流行時は全員予防接種を実施している。(施設内に訪問看護師)ノロウイルス等予防対策は、毎食前に消毒剤を手拭いし、食後にうがい薬にて対応している。		年1回の予防接種は利用者、職員全員行っている(11月~12月)。外出から戻った時などは手洗やうがいは必ず行っている。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、身体を病原菌に耳元に行き、施設内の大きな冷蔵庫で保管、管理している。		調理後は、すべて消毒される。(用具、タオル等)調理中は手袋を使用している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、出来るだけ障害物を取り除き、きれいに整頓され、安心して行き来者散歩出来る。		外観的にも花木植栽がきれいに手入れされており、会話を楽しめるように、ベンチを設置している。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月別にフロアに季節感のある壁飾りや利用者によるめり絵制作など飾り、居心地のよい場所づくりがあるよう努めている。		居室に毎月手づくりのカラーメり絵を飾ったり、きれいに自身の名前を常に書いていたおこうに努めている。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでテレビを見たり、おしゃべりめり絵制作やスケッチなど一人ひとりが自由に過ごしている。		布たためを設けたり、それを別々の利用者が利用したり利用者同士で楽しく行っている。又、ささいな散歩を楽しんでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	利用者がお好みものの、なじみの使用 (していたものや、自由に配置していたもの) 居心地のより生活が出来るように、支援 している。		壁掛け、椅子、その他なじみの寝具類 など自由であり、楽しく生活をしていただ いている。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居室：フローリングは毎日 行っている。季節により空調などは、 居室フロー通路なども対応している。		各居室は季節により空調調節を (2階まで)通じていただいている。換気は 毎日行っている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	すべての廊下には、手すりがついており、 トイレ、風呂場も広く、利用しやすいに なっている。		廊下は手すりがついているため 歩行訓練などでもやりやすく、リハビリ には役立つ安全策にもなっている。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室の表示は、本人の目線に合わせて やりやすいようにし、又目印に花や 可愛いものを飾っている。		利用者が自分の名前を認識する ことは、わかる力の総動員にもなり (例えばセーター、洗濯物、失敗(別の居室に 入らぬ)防止につながっている。
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	四季折々の花、樹木を植えた。、 居室内の鉢花を居室前に植替えた 楽しんでいる。		外周りにベンチを置き楽しく日光浴 やお話しなどしている。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

基本である「やさしく、しんせつ、でいねいに」をもちに、お言葉での理念「心安らく」の場作り  
 みんなの笑顔が「未来にちのしあわせ」にそった職員の常識ある介言を支持している。  
 環境に思われたい思いの多い嘉又地での日々の生活に心安らく落ち着いたホームである。